

本COEプログラムで掲げている目的と合致するものである。本研究科では、修士論文は必ずしも特定の時代区分や民俗の領域内に限定せず、学際的、総合的なテーマの論文も提出されており、その研究動向は多彩多様であるが、今後、博物館資料学を専攻する院生の修士論文や博士論文が提出されるようになり、さらに研究内容に広がりを持つこととなる。

こうしたカリキュラムの大幅な改訂により、1993年の修士課程（定員10名）の開設以来、1995年、博士後期課程（定員3名、修士課程を博士前期課程とする）の開設、1996年、紀要『歴史民俗資料学研究』の発行、1999年、昼夜開講制の導入（博士前期課程の定員を20名に増員）、同年、最初の博士課程修了者に博士（歴史民俗資料学）の学位を授与（これまで課程博士6名、論文博士1名が誕生）といった、いくつかの節目を経ながら10年の歴史を刻んできた本研究科は、発展期へと入っていくことになる。

（歴史民俗資料学研究科委員長 田上 繁）

研究拠点紹介

日本常民文化研究所

日本常民文化研究所の前身、アチック・ミュージアムは、澁澤敬三によって創設された在野の小さな研究組織である。ここに1935年頃から澁澤の死去する1962年までは民間の歴史、民俗の研究所として篤実な、また同時にそれでいてユニークな多くの業績をあげ多くの人材を輩出した。澁澤の人柄や発想や感性、使命感、そして組織力や財力に大きく依拠した活動を続けてきていただけに、彼の死後その活動は縮小し研究所の性格も変わった。一時は武蔵野美術大学の系列校である東京武蔵野市の武蔵野美術学園内にその場が移され、1972年には港区三田二の橋のマンションへと移った。この間、主に河岡武春、潮田鉄男によって研究所の業務が支えられていた。

この財団法人の研究所を神奈川大学が招聘したのは1982年のことであり、神奈川大学内の研究所としての活動はこの二十年余ということになる。

以下、本学に移ってきてからの活動を中心にいくつかのことを列記していきたい。

主な所蔵資料及び図書

本研究所は、旧研究所の蒐集した資料の一部を引き継ぎ、またその後の調査などで蒐集した資料を所蔵している。これらを整理したものから公開する。

水産関係筆写資料

二神家文書…古銭とともに同家より譲渡された。

寄託、寄贈文書…寄贈：永長家文書（茨城県）、小宮家（東京都）、小泉家（神奈川県）、西田家（東京都）ほか。

四季耕作子供遊戯図巻、耕稼春秋

絵引原画…1967年（1986年新版）に出版された『絵巻物による日本常民生活絵引』の村田泥牛による原画。

澁澤写真・澁澤フィルム…昭和初期に澁澤敬三が撮影させた各地の民俗等のスチール写真と18mmフィルム

図 書…旧常民から引き継いだ図書に、神奈川大学に移ってから寄贈、交換、購入等で受け入れた図書を加えた蔵書。

日本古代史研究者の故弥永貞三氏旧蔵書、民俗学者の故河岡武春氏旧蔵書、民族学振興会旧蔵書などを含む。

2003年10月現在で約8万冊。



刊行物

新版絵巻物による日本常民生活絵引(全5巻、付総索引)(1984)

神奈川大学日本常民文化研究所調査報告

第9集十三塚現況調査編(1984)・第10集十三塚-実測調査・考察編(1985)・第11集仕事着-東日本編(1986)・第12集仕事着-西日本編(1987)・第13集民具実測図の方法 農具(1988)・第14集民具実測図の方法 漁具(1989)・第15集民具実測図の方法 生活用具(1990)・第16集運搬具(1992)・第17集漁民の活動とその習俗(1993)・第18集漁民の活動とその習俗(1995)・第19集暮らしのなかの技術と芸能(2002)

民具マンスリー...第15巻1号(1982.4)~第36巻9号(2003.12現在)

神奈川大学日本常民文化研究論集...『歴史と民俗』1~19(2003.12現在)

神奈川大学日本常民文化叢書

喜界島風土記(柘嘉一郎)・鍛冶道具考(吉川金次)・瀬戸内西部の漁と暮らし(進藤松司)・芦東山日記(橘川俊忠校訂)・ハワイ日系移民の服飾史(バーバラ・F・川上、香月洋一郎訳)・伊勢道中日記(西和夫編)

奥能登と時国家全五巻

上記刊行物は『民具マンスリー』以外は平凡社刊

講座

民具研究講座...1982年~1995年まで14回開講

常民文化研究講座(1997~)...

日本文化研究の領域を新たに活性化させようとする意図のもとに、1997年以来、年1回のペースで開催している。講座は、毎回テーマを設定した講演会、シンポジウムと、2つの実習(古文書修復実習、民具実測実習)で構成されている。



企画展「ぬいもの・つくろいもの」展示風景

展示

2002年より本学3号館常民参考室において秋に2か月程度定期的に開催。

『常民ニュースの発行』

本研究所の日常的な活動を伝えるニュースレターとして、1998年7月以来、年4回のペースで発行している。研究会、展示のお知らせ、所蔵資料の紹介等の記事などで構成される。

(日本常民文化研究所所長 香月 洋一郎)

研究拠点紹介

外国語学研究科 中国言語文化専攻

私たち外国語学研究科中国言語文化専攻のことを紹介する前に、まずその母体である中国語学科の歴史に触れておこう。

中国語学科が英語・英文、スペイン語の両学科について外国語学部に誕生したのは、1988年4月のことで、今の1年生は16期生にあたる。創立時から維持してきた学科の方針は、中国語の習得はもちろんのことだが、学生の興味に従い、言語、文学、歴史の3つに分けて専門的な知識を積み、教養を深めることであり、それを主に少人数のゼミナールで鍛えるというものである。